

学校教育目標	「みとめ合い 学び合い 高め合う子」			
	知：子どもの興味関心を高める授業改善に取り組み、基礎・基本を大切にしながら、課題解決に向けて粘り強くやり遂げる態度を育てます。 徳：社会のきまりやマナーを守る規範意識を高めながら、善悪をしっかりと判断し、節度や礼儀を大切にすると共に、仲間を思いやる心を育てます。 体：自他の生命を大切にすると共に、規則正しい生活習慣や食習慣への意識を高め、健康でたくましい体をつくらうとする態度を育てます。 公：自分らしさを生かして集団に関わり、二谷のまちや人に感謝しながら、社会の一員としてよりよい社会生活を営もうとする態度を育てます。 開：様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、国際社会や地球環境について考えようとする態度を育てます。			
学校概要	創立	117 周年	学校長	矢島孝幸
	副校長	西かおり		学期制
児童生徒数：		393 人	主な関係校： 栗田谷中学校 青木小学校 幸ヶ谷小学校	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
< 問題発見解決能力 >	栗田谷中学校 青木小学校 幸ヶ谷小学校 二谷小学校	未来を拓き、心豊かに生きる力
		・ブロックテーマに迫るための授業づくり及び小中間での授業参観

中期取組目標	〇子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で信頼され活力のある学校づくりを進めます。 ・子ども一人ひとりが「わかる・楽しい」授業づくりを進め、学力の向上と学習に向かう主体的な姿勢の育成を目指します。 ・誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・健康な心身をつくるために、望ましい生活習慣や体力づくりに日常的に取り組めます。 ・自己決定や自己実現、また多くの人との関わりを通して、子どもの自己肯定感を高めていくことができるようにします。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①スキルタイムを活用して、学力の基礎・基本の学力の定着を図る。 ②子ども自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 ③友だちと関わり合いながら、対話的な学びを通して課題解決をすることができるようにする。
担当	評価部	
徳	豊かな心	①規範意識を高め、健全な自尊感情を育むために、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ②子どもが主体となったあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ③自他の立場を考えて協力し、より良い学校生活を送れるように、異学年がかかわりあうようにする。
担当	児童指導部	
体	健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。 ②かむことの大切さに気付き、日々の生活の中でよくかんで、食事ができるような意欲を育む。 ③すこやかタイムの取り組みを通して、バランスの良い食事の大切さについて学ぶことができるようにする。
担当	健康教育部	
公開	自分づくり	①他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。 ②YPアセスメントを活用した授業づくりを通して、子どもが自身の変容や成長を肯定的に自己評価し、自信をもって学習活動に取り組むことができるようにする。
担当	重点研究部	
いじめへの対応		①児童が安心して過ごせるような学校づくり、学級づくり、授業づくりを進める。 ②いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有を図る。 ③児童理解研修やいじめに関する研修、児童へのアンケート調査を行ったり、YPアセスメントを活用したりすることで教職員の意識を高め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①学年、ブロック等の組織を活用し、日常的に研修に取り組むことで、キャリアステージに応じた指導力の向上を図る。 ②校内重点研と連動した授業実践を行うことで、授業力の向上に努める。 ③高学年ブロックで一部教科分担制に取り組み、教師の指導力向上を図るとともに働き方改革を進めていく。
担当	教務部・メンター研	
学校運営協議会		①授業参観・学校行事への参加の機会を設定する。 ②様々な視点から意見をいただき、学校運営の改善に役立てる。 ③年4回の開催の中で、テーマを決めて計画的に進め、地域に開かれた教育課程の推進を図る。
担当	教務部	
特別支援教育		①より確かな児童理解ができるように職員会議や学年研を工夫して組織的に情報共有や共通理解ができるようにする。 ②関係機関との連携を図り、合理的配慮やユニバーサルデザインをテーマにした職員研修を行う。 ③特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図る。
担当	特別支援委員会	
児童指導		①スタンダードの共通理解し、指導の徹底を全職員で行う。 ②規範意識を高め、健全な自尊感情を育むために、道徳教育の充実を図る。
担当	児童指導部	
a15		a25
担当		

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「みとめ合い 学び合い 高め合う子」
 知：子どもの興味関心を高める授業改善に取り組み、基礎・基本を大切にしながら、課題解決に向けて粘り強くやり遂げる態度を育てます。
 徳：社会のきまりやマナーを守る規範意識を高めながら、善悪をしっかりと判断し、節度や礼儀を大切にすると共に、仲間を思いやる心を育てます。
 体：自他の生命を大切にすると共に、規則正しい生活習慣や食習慣への意識を高め、健康でたくましい体をつくろうとする態度を育てます。
 公：自分らしさを生かして集団に関わり、二谷のまちや人に感謝しながら、社会の一員としてよりよい社会生活を営もうとする態度を育てます。
 開：様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、国際社会や地球環境について考えようとする態度を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

< 問題発見解決能力 >

具体化した資質・能力

自ら課題を発見し、解決に努める力
情報を発信する力

中期取組目標

○子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で信頼され活力のある学校づくりを進めます。
 ・子ども一人ひとりが「わかる・楽しい」授業づくりを進め、学力の向上と学習に向かう主体的な姿勢の育成を目指します。
 ・誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。
 ・健康な心身をつくるために、望ましい生活習慣や体力づくりに日常的に取り組めます。
 ・自己決定や自己実現、また多くの人との関わりを通して、子どもの自己肯定感を高めていくことができるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①スキルタイムを活用して、学力の基礎・基本の学力の定着を図る。 ②子ども自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 ③友だちと関わり合いながら、対話的な学びを通して課題解決をすることができるようにする。
担当	評価部

学力向上に関わる本校の状況
令和3年度に校内で調査した子どもへのアンケートによると、「授業が楽しい」「進んで授業に取り組んでいる」「みんなで話し合ったり一緒に考えたりする学習が好き」という児童が、全ての学年で8割を超えている。さらに、「学習が分かるようになってきた」という項目では、9割を超える児童がそのように感じているという結果が出た。保護者アンケートでも、8割を超える保護者が、スキルタイムの取組や課題解決に向けての児童の取組の成果を感じていることが分かった。しかし、「わたしには、よいところがある」という項目では、学年によるばらつきはあるものの、自分によいところがあると感じる児童の割合が高いとは言えず、自信のなさやうかがえる。これは、知識として分かったと実感することで学習の楽しさを感じてはいるものの、自分で考え、選択・判断し、試行錯誤を積み重ねていく経験が十分に支援できていないからと考えられる。自己決定・自己実現の場を設定した授業を通して「分かる・できる」といった自己の成長や変容を実感できるようにし、そこから得た自信や達成感から自己肯定感を高めて主体的な学びにつなげていけるようにする。また、友達と学び合うよさや楽しさが味わえる活動を充実させていく。

今年度の目標				
豊かな学び合いにより、自己肯定感を高めながら主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、基礎・基本の学力の定着を図る。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> ・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td> ・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 </td> </tr> </table>	上半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。	下半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。
上半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。			
下半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。			

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①規範意識を高め、健全な自尊感情を育むために、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ②子どもが主体となったあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ③自他の立場を考えて協力し、より良い学校生活を送れるように、異学年がかかわりあうようにする。
担当	児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況
学習状況調査の生活意識調査から、自分に関することに対しては意識が高いものの、周りの人とかかわりには意識が低いことが分かった。また、YPアセスメントシートの結果から、全体的に自尊感情が低い傾向にあることが分かる。豊かな心の育成にむけて、お互いを認め合い、高め合う人間関係づくりが、重要になってきている。

今年度の目標				
自分のよいところに気づき自尊感情を高めるとともに、周囲の人を大切に思い、豊かな人間関係を築こうとする心情を育てる。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> ・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td> ・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。 </td> </tr> </table>	上半期	・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。	下半期	・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。
上半期	・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。			
下半期	・ペア活動を充実させ、異学年がかかわり合う場を設定する。 ・児童が主体の活動によるあいさつ運動によってあいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ・子ども個々が行事や体験学習を通して活躍する場をみつけ自己肯定感を育てるようにする。			

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。 ②かむことの大切さに気づき、日々の生活の中でよくかんで、食事ができるような意欲を育む。 ③すこやかタイムの取り組みを通して、バランスの良い食事の大切さについて学ぶことができるようにする。
担当	健康教育部

健やかな体に関わる本校の状況
平成29・30・31(令和元年)年度の「横浜市体力・運動能力調査」のデータより、本校は長座体前屈、50メートル走、握力が低い傾向にある。その中でも令和3年度は、上記データより「柔軟運動」に注目する。また、コロナ禍でも楽しく運動に親しむことができるように年間を通して、様々な運動体験ができる機会を設ける。新体カテストの結果から、ほとんどの項目で市平均を上回るか同等の記録が出ている。特に、20mシャトルラン、反復横とびの結果の良さは顕著である。市の平均を上回っている立ち幅跳びと長座体前屈については、市平均を下回る学年もあり、瞬発力と柔軟性の向上が、本校児童の課題と考えられる。すこやかタイムや学校保健委員会では、二谷小学校児童の健康面での課題を提示し、バランスの良い食事への意識を高める場としてきた。

今年度の目標				
子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。かむことの大切さに気づき、日々の生活の中でよくかんで、食事ができるような意欲を育む。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> ①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td> ①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施 </td> </tr> </table>	上半期	①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施	下半期	①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施
上半期	①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施			
下半期	①運動紹介(持久走、鉄棒、柔軟運動、短縄) ②すこやかタイム(月に1度のかむことの学習) ③全学年参加の学校保健委員会の実施			

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①スキルタイムを活用して、学力の基礎・基本の学力の定着を図る。 ②子ども自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 ③友だちと関わり合いながら、対話的な学びを通して課題解決をすることができるようにする。		
豊かな心	①規範意識を高め、健全な自尊感情を育むために、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ②子どもが主体となったあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを自覚し進んであいさつができるようにする。 ③自他の立場を考慮し協力し、より良い学校生活を送れるように、異学年がかかわりあうようにする。		
健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。 ②かむことの大切さに気付き、日々の生活の中でよくかんで、食事ができるような意欲を育む。 ③すこやかタイムの取り組みを通して、バランスの良い食事の大切さについて学ぶことができるようにする。		
自分づくり	①他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。 ②YPアセスメントを活用した授業づくりを通して、子どもが自身の姿容や成長を肯定的に自己評価し、自信をもって学習活動に取り組むことができるようにする。		
いじめへの対応	①児童が安心して過ごせるような学校づくり、学級づくり、授業づくりを進める。 ②いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有を図る。 ③児童理解研修やいじめに関する研修、児童へのアンケート調査を行ったり、YPアセスメントを活用したりすることで教職員の意識を高め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。		
人材育成・組織運営(働き方)	①学年、ブロック等の組織を活用し、日常的に研修に取り組むことで、キャリアステージに応じた指導力の向上を図る。 ②校内重点研と連動した授業実践を行うことで、授業力の向上に努める。 ③高学年ブロックで一部教科分担任制に取り組み、教師の指導力向上を図るとともに働き方改革を進めていく。		
学校運営協議会	①授業参観・学校行事への参加の機会を設定する。 ②様々な視点から意見をいただき、学校運営の改善に役立てる。 ③年4回の開催の中で、テーマを決めて計画的に進め、地域に開かれた教育課程の推進を図る。		
特別支援教育	①より確かな児童理解ができるように職員会議や学年研を工夫して組織的に情報共有や共通理解ができるようにする。 ②関係機関との連携を図り、合理的配慮やユニバーサルデザインをテーマにした職員研修を行う。 ③特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図る。		
児童指導	①スタンダードの共通理解し、指導の徹底を全職員で行う。 ②規範意識を高め、健全な自尊感情を育むために、道徳教育の充実を図る。		
a15	a25		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b1		
豊かな心	b2		
健やかな体	b3		
自分づくり	b4		
いじめへの対応	b5		
人材育成・組織運営(働き方)	b6		
学校運営協議会	b7		
特別支援教育	b8		
児童指導	b9		
a15	b10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
学校運営協議会	c7		
特別支援教育	c8		
児童指導	c9		
a15	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			